

高教組情報

No. 1

2020年8月26日
文責 寺田 杉

長崎高教組 長崎市中川2丁目2-5 TEL (095) 827-5882

高教組は8月19日に、コロナ禍の中で教職員と子どものいのちと健康を守るための対策にかかる申し入れを県教委に行いました。職場から寄せられた県教委への要望等も紹介し、責任ある対策を求めました。

「働きやすい職場づくりのためのアンケート」に寄せられた「コロナ対策」に関する声の一部です。

- *すべての生徒や教職員を守るという姿勢を県教委に示してほしい。
- *予防対策の実効性ある指標を示してほしい。現在の生徒の状況を実際に見てほしい、「3密」の極みだ。
- *家庭には小さな子どももおり、外部の人と接するなど感染リスクが高い仕事が学校には多いために心配。

高教組：何よりも職場の不安に 대응するためにも県独自のガイドラインをつくるべき。

ゾーニングへの対応や休校等の判断など学校で起こりやすいコロナに関する対応については、国のマニュアルを整理しポータルサイトにアップして誰でも見ることができるよう工夫すべきだ。何よりも職場の不安に 대응するために県独自のガイドラインをつくるべきだ。

県教委：現段階で、県独自のガイドラインを策定することは考えていない。

体調が悪いか熱があるとか、感染が疑われる生徒や教職員は学校に来ることがないように言うことが大事。文科省の衛生管理マニュアルが3回目の改訂があっている。このマニュアルにはガイドラインが示してあるので、まずはこれを徹底してほしい。

◇以下は、「ガイドライン」以外の要求についての【高教組の要請内容】と（県教委の回答）のダイジェストです。

【医療従事者や介護施設職員とあわせて養護教諭や訪問担当職員等にPCR検査体制をつくること】

（県教委）学校職員に限っての検査は今考えてない。他の部局と情報を共有しながら検討していきたい。

【学校で感染防止対策のための安全衛生委員会を開催すること】

（県教委）招集の判断は校長にある。文科省の通知の中にも、改訂されたチェックリストがあるので、それを活用しながら感染防止に努めてほしい。

【負担が重い校内消毒作業を外部の専門業者に委託すること】

（県教委）感染者が出た場合の消毒について、専門業者を入れるか入れないかは保健所の指導による校内の全部を消毒するのはかなりの負担。あってはいけないがそれを養護教諭だけがしているとか、一部の職員だけがしているとか、それはかなりの負担のはず。県教委としてはコロナ対策として全職員でとりくんでほしいと言いたい。

【感染拡大防止のため必要な物を必要数、学校に配布、充足させること】

（県教委）消耗品とか備品とか、1校につき上限200万から300万、特支は400万が措置されている。学校に令達している。

これに対して高教組は、令達されていることを養護教諭等の消毒液や備品をとり扱う職員に周知していな学校もあることをあげ、職員へ周知の徹底を求めました。

☆令達されてあることを管理職に確認し、有効に使うことが大事です。

また、「現場に必要なものを『物』で配ってほしい。学校のオープンクール等は集まる人数も多いので、非接触型の体温計1台では足りない。近隣の学校から借りるとか、個人的に持っているものをかき集めるとかしている。」など、現場の声を届け、その学校が求めていることにきちんと対応することを求めました。

☆働きやすい職場にするため県教委と交渉できる高教組への加入を待っています